

企 画 展

マリモ発見120年

# マリモの謎

—どこからきたのか？ なぜまるいのか？—

2017.  
8.22 火 ▶ 10.9 月・祝

**国立科学博物館** (東京・上野公園) 日本館地下1階多目的室

開館時間：午前9時～午後5時 \*8・9月の金・土曜日は午後9時まで \*10月の金・土曜日は午後8時まで

休館日：9月4日(月)、9月11日(月)、9月19日(火)、10月2日(月) \*入館は各閉館時刻の30分前まで

入館料：一般・大学生620円(団体310円) 高校生以下および65歳以上無料 \*団体は20名以上

主催：国立科学博物館 学術協力：釧路市教育委員会

9.30(土)  
マリモ講演会開催決定!

詳しくはイベントカレンダーをご覧ください。

[ここをクリック](#)



国立科学博物館  
National Museum of Nature and Science

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20 TEL: ハローダイヤル 03-5777-8600 FAX: 03-5814-9898

マリモ発見120年

# マリモの謎

—どこからきたのか？ なぜまるいのか？—

## 展示概要

今年は、

1897年（明治30年）8月23日に

阿寒湖を訪れた札幌農学校の川上瀧彌（かわかみたきや）が、  
毬のような球状で美しい藻を発見して120年目にあたります。

翌年、この藻は川上によって「毬藻（マリモ）」と名付けられ、東京植物学会の

『植物学雑誌』に発表されました。以来、数多くの生物学者が、マリモがどこから来たのか  
（生物地理学的な起源）そしてなぜ丸いのか（球状化するメカニズム）の解明に挑んできました。

本展示では、この記念の年に、これら2つの謎について近年の研究で明らかにされた成果をマリモの  
実物や生態映像で紹介いたします。また、現在絶滅の危機に瀕しているマリモを保全するために阿寒湖で  
取り組んでいる活動や、当館が山中湖で行っている研究調査を紹介いたします。

## 展示構成

### 第1章 マリモの発見

120年前の夏、川上瀧彌はいかにしてマリモと出会ったか？

### 第2章 第1の謎 マリモはどこから来たのか？

マリモは淡水にすむ緑藻ですが、海藻のグループであるアオサ藻類から進化  
しました。遺伝的な研究によって世界中に分布するマリモの故郷が日本とそ  
の周辺であるらしいことが分かってきました。

### 第3章 第2の謎 マリモはなぜ丸いのか？

マリモの神秘的な丸さは、阿寒湖の絶妙な水の動きが作りだしています。  
湖底でマリモが回転する様子を紹介いたします。

### 第4章 マリモの未来

マリモは、絶滅の危機に瀕しています。阿寒湖では、マリモを  
未来に残すための保全活動を行っています。  
その1例として「マイマリモ」事業を紹介いたします。

### 第5章 国立科学博物館の取り組み

当館が行っている、山中湖のマリモを調査し、  
保全するための研究調査を紹介いたします。

